

日本の海岸線を歩く会 行動報告書

報告者 : 友松知宏

1. 概要

地域分類	山陽道—10
計画区間	スタート地点 : 兵庫県赤穂市JR播州赤穂駅 ゴール地点 : 兵庫県明石市JR明石駅
実施期間	平成 29 年 11 月 12 日(日) ~ 16 日(木)
概算歩行距離	88. 2Km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	ワケル期	備考(ワケルとの関係等)
	L 兼 記録	友松知宏	8 期	

3. 歩行計画

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考(宿泊)
1	11/12	米子=播州赤穂駅~相生市相生	19.5km		開運旅館
2	11/13	~ 姫路市網干	23.3km		ともえ旅館
3	11/14	~ 高砂市高砂駅前	23.5km		ホテル高砂
4	11/15	~ JR 明石駅=日生	22.0km		たまや旅館
5	11/16	=広島=周防大島=広島=米子	—		観光

88. 3Km

4. 地図



5. 費用

交通費	
JR 運賃	22,350
タクシー代	4,500
レンタカー（ガソリン代含む）	7,020
宿泊費	31,000
飲食代	4,500
雑費（入館料等）	1,400
合計	70,770

6. 詳細説明

11月12日 曇り

5:30JR 米子発=7:41 岡山=8:26 相生=9:14 播州赤穂駅～市歴史博物館～赤穂城公園昼食～11:30 赤穂海浜大橋（千種川）～13:00 丸山県民サンビーチ～15:05 しおさい市場～16:15 日の浦工業団地入り口～日の浦トンネル・藤戸トンネル～17:30 国道250号線合流～17:50 開運旅館（山陽網干）

歴史博物館は軽く見て早めに宿に入るつもりでいたが、製塩業の歴史が面白く、赤穂の出発が1時間遅れとなる。その日は赤穂市民マラソン大会。公園の駐車場が屋台村で、そこでラーメンを食べたが麺が完全にびきって歯にき、最悪。



播州赤穂駅



赤穂城公園—1



赤穂城公園—2

午後3時しおさい市場。鮮魚や魚の加工品を売る市場で、牡蠣の食べ放題などもあり、ここで食事にすればよかった。小エビのから揚げ300円也を買う。経木の皿に山盛りで、味も良い。少し食べて夜のビールのつまみにも思ったが、ぜんぶ食べてしまった。16:15 日の浦工業団地入り口。道に鎖が張られ「社有地につき立ち入り禁止」の看板。485号線にそって、日の浦トンネル、藤の戸トンネルを迂回。アップダウンのある山道を1.5Kmほどアルバイトとなった。17:30 相生白龍（ペーロン）城道の駅。2階が温泉。面白そうだが素通り。17:50 開運旅館（相生市役所前）到着（宿泊）。



しおさい市場—1



しおさい市場—2/牡蠣食べ放題の看板



相生白龍城道の駅

11月13日 くもり⇒晴れ

8:20 開運旅館出発～9:30 野瀬～10:50 鰯浜港～11:20 海宝海の駅(昼食)～13:10 室津港(景観地区)～14:50 御津道の駅 15:15～世界の梅公園入口～16:00 橋田志津子さん宅 16:30～18:00 マックスバリュー(刈屋)～19:00 ともえ旅館(山陽網干前)

朝出がけにちょっとしたトラブルがあり、出発が30分ほど遅れた。

相生湾に沿って南下。野瀬で碑文を読んでいると、大きなマスクをつけた女性(高畑勝美さん)が話しかけてきた。この土地が壇ノ浦で敗れた平家の落人の里であること、竹下夢二縁の地であることなどを聴かせてもらい、ご自分も健康ウオークの途中だからと一緒に歩き始めた。国道をそれて木の茂った遊歩道を歩き、30分ほどで「私はこっちの方へ行くから」とお別れした。別れ際ハグ。

室津に入ると牡蠣の作業場がならぶ。11:30 海宝海の駅に到着。1階が鮮魚直売店で2階がレストラン。旨い魚を食わせる店だろうと、ちょっと早い昼食にする。2階に上がると、広い客席に客はまばら。悪い予感がしたが、せっかく上がったのだからと店に入った。生きの良い漁師料理を期待したのだが、長テーブルに小鉢が並び、トレイに取る社員食堂形式。牡蠣のポン酢和えを選んだが、牡蠣は委縮してトロコロ身が固い。サザエの煮つけは味が濃すぎて食べ残し、手拭きが入っていたポリ袋に入れて宿で食べようとポーチにしまったのを忘れてしまった。帰宅して見つけ、ビールのつまみになった。前日に続いて昼食は外れ。



相生湾(開運旅館屋上から)



高畑勝美さん(野瀬公園)



牡蠣の処理工場(室津)

連絡したいことを思いましたが携帯電話がない。宿のトイレで洗面台に置いたのを思いましたが、連絡のしようもなく、仕方ないとそのまま歩行を続ける。

室津港は海の宿場町として、また竹久夢二、井原西鶴、谷崎潤一郎、司馬遼太郎、平岩弓枝ら文人が来て作品に描いた風光明媚の保養の町として栄え、いまもその面影を残している。



牡蠣養殖筏(室津)



室津港



魚を干す(室津)



室津街並みー1



室津街並みー2



室津街並みー3

15:50 御津(みつ)道の駅。電話を借りられないかと店に入る。事務所が見当たらないので野菜の袋詰めをしている女性に電話を使わせてほしいと言うと、自分の携帯を使えと言う。ありがたくお借りして前夜の宿に電話をするが、不在らしく通じない。わきで女性が留守電に入れておけというので、携帯を置き忘れた旨吹き込んだ。電話代をと小銭を差し出したがお互いさまと受け取らない。ありがたくお礼を言い、柿を一つ(お礼のつもりで)買う。歩きながら食べるつもりだったが、疲れもあり、ベンチに座って柿を食べていた。そこへ先刻の女性が追いかけてきて、宿から返信があり、携帯があったという。今一度電話するよにと言うので、再度電話をお借りして宿に入れると、携帯を忘れただけでなく、部屋の鍵を返していないと言う。ポケットを探ったら確かに鍵がある。絶句。今夜宿に着いたら列車の時刻を調べて返しに行く約束。

いま一度女性に礼を言い、名前を教えて欲しいと言ったが、「いいから」と言って、また仕事場に駆けていった。携帯のことは一件落ち着いたのだが、遅くなったので道を急いでいると、後ろから「気を付けて行ってください!」と声がして軽バイクに乗った先刻の女性が止まった。「これを食べて元気を出してくださいね」とハンドルについた籠からバナナを取り出し、差し出してくれる。再々の親切に言葉がでず、またお名前を聴かずにさようならをしてしまった。

世界の梅公園を通り抜ける予定であったが、かなり時間が遅れたのと、4時で梅公園は閉まると先刻の女性が言ったので、梅園には寄らず国道250号を直進することにした。梅公園への入り口を過ぎたところで、大型犬を散歩させているご婦人に出会い、ワンちゃんと目が合ってしまった。嬉しそうにしっぽを振り、すり寄ってくる。撫でてやると座り込んでしまった。ご婦人が「どこまで」と訊くので、ちょっとした間立ち話になる。お別れするとワンちゃんがご婦人を曳いてついてくる。どうやらお宅はこの道の先らしい。



志津子さんと梅子さん(橋田さん宅)

よほど疲れているように見えたのだろうか、「に家に寄ってコーヒーを飲んで行かないか」と誘われ、ありがたくご馳走になることにする。

ご婦人の名前は橋田志津子さん。手編み手芸の先生で、ワンちゃんの名前は梅子さん。男と思っていたが女性であった。世界の梅園に因んで梅子と名前を付けたそうだ。30分ほどコーヒーとケーキをご馳走になり、お暇した。

19:00 山陽網干駅まえのともえ旅館に到着。

11月14日 雨⇒くもり

ともえ旅館7:15=タクシー=JR網干駅=相生駅=タクシー=開運旅館=タクシー=相生駅=JR網干駅=タクシー=山陽網干駅9:00~10:00山陽天満~11:30飾磨~12:35市川永位橋~妻鹿/喫茶

シリウス（昼食）～14:13 浜の宮～15:40 的形／ローソン（トイレ）～16:40 山陽曾根～17:30 伊保～19:10 高砂（ビジネスホテル宏和）

前夜宿の主人と相談し、タクシーで JR 網干駅に行き、そこから相生に行くことにした。ともえ旅館で携帯を受け取り、鍵を返す。往復 2 時間のロス。改めて山陽網干駅から 9:00 出発。

平松～浜の宮は山陽特殊鋼など製鉄・重機コンビナート地帯の縁をなぞるように国道 250 号が走り、重量級トラックが猛スピードで走行しているが、歩道がしっかり整備され、国道と工場の間には幅 4～500m の緑地帯があって気持ちよく歩ける。



緑地帯—1



緑地帯—2



浜の宮公園

山陽道は古くから重要な幹線であることから、昔の栄華を偲ばせる街並みが随所にある。国道沿いは格式のある商家が並び、路地に入ると庶民の家並み。それが今も生活の場になっているところが面白い。東京でいえば浅草や谷中のような下町の風情である。



表通り



路地裏—1



路地裏—2

予定より 2 時間遅れで、19:10 高砂駅前通りのビジネスホテル宏和に到着。

11 月 15 日 くもり⇒晴れ

7:10 ホテル高砂～7:27 加古川～8:45 別府～10:50 東二見～13:15 西明石～14:15 JR 明石駅
＝姫路駅＝15:15 播州赤穂駅＝タクシー＝大石神社見学＝赤穂駅 17:58＝18:13 日生駅
～旅館たまや（宿泊）

携帯に「赤穂城大石神社に赤穂四七士像があり、そのうち小野寺十内像は自分の叔父「辻 晋堂（1910-1981）の作である」とメールが入り、スピードをあげて時間を浮かせ、今一度赤穂城へ行くことにする。休憩時間も節約。昼はローソンのサンドウィッチと牛乳で済ませる。

コンビナート周辺の国道は整備されているが、県道 718 号に入ると道道は細くなり、歩道もなく、鉄製品を運ぶ大型トラッ



道幅いっぱいになるトラック

クやトレーラーが我が物顔に往来する。歩行も命がけである。

終着明石駅が近づいたので明石川橋を曲がり国道 250 号に移る。

国道に出て明石駅方面に歩き始めた瞬間、乗用車がすれ違いざまにクラクションを鳴らし、後に続くトラックが急停車。振り向くとトラックと軽自動車があわや衝突寸前。「やった！」と思ったが、衝突音はなく、片側二車線の高速側で軽自動車とトラックが向き合い停止した。後からきたバスも手前で停止。軽自動車が逆走してきたのである。軽自動車はバックし、2~3度切り返しをして方向転換、西明石方面に走り去り、トラックとバスも発信。何事もなかったように、車が流れ始めた。高齢者と思ったら初心者マークがついていた。嫌なものを見なくてよかった。



西明石方面へ走り去る



2~3度切り返し方向転換



トラックの前に軽乗用が停止

14:15 明石駅に到着。今回の予定を完了。

今日の宿泊予定の日生（ひなせ）へ行く途中、播州赤穂駅で途中下車。赤穂城公園の大石仁神社に行き、四七士像を拝観。

日生のたまや旅館は6月にお世話になり、再訪の約束を果たし、約束の牡蠣料理を出してもらった、今回の歩行で唯一の特別料理で、写真も撮ったのだが、データをとりだすことができず、お見せできないのが残念。



JR明石駅

11月16日 くもり⇒腫れ

07:28 JR日生駅=09:20 広島駅=レンタカー=広島平和公園/被爆者慰霊祈念館(拝観)=14:20 周防大島(山口県)/宮本常一記念館、星野哲郎祈念館=大島を半周=18:20 広島駅 19:12 バス=22:21 米子駅(帰宅)

平和公園で予定以上に時間を使い、道に迷ったりして周防大島へは2時間遅れとなり、宮本常一記念館で話を聴くつもりが出来ず仕舞であったが、展示品の写真を撮らせてもらうことができた。

宮本常一さん(1907.08.01~1981.01.30)は、一般には俳優坂本長利さんの独り芝居「土佐源氏」の原作者として知られているが、民俗学、農村指導、社会教育に一生をささげた偉大な学者であり、実践家でもあった。膨大な著作を残しており、代表作「忘れられた日本人」は1960年に初版。その後岩波文庫に引き継がれ、昨年(16年)6月に第67刷が出され、ロングセラーである。

何よりもすごいのは、著作はすべて現場の古老たちから直截聞き取ったもので、北海道から沖縄まで米を背負い、丹念に足で歩いており、私がしてきた里歩きなぞはお遊びにしか思えなくなる。

星野哲郎さんは、楽しく歌う会でお世話になった米子の作曲家村尾義晴さんが、星野さんが無名の頃にNHKのラジオ歌謡に選ばれた歌「桐の実」に曲をつけており、追討の意味もあって立ち寄った。

帰途、通勤ラッシュに巻き込まれて遅れたが、1バス遅れで米子に何とか帰ることができた。

7. メッセージ

別添添付

以上